

パイプシステム通信

No.31

2026年7月 (隔月発行)

「パイプシステム通信」は2022年10月の創刊以来、皆さまに支えられながら発行を続けてまいりました。

このたび、本号をもちまして発行を終了いたします。これまでご愛読いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。

今後は、本号でご案内しております「WATER KNOWLEDGE PARK」を通じて、各種情報を随時発信してまいります。引き続きご活用いただけますと幸いです。これまでのご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

パイプシステム通信編集部

2026年8月4日～8月7日
下水道展'26東京

(公益社団法人 日本下水道協会 主催)

「下水道展'26東京」が2026年8月4日から8月7日まで東京ビックサイトで開催されます。

当事業部では、下水道圧送管路調査機器CSカメラ「スネークくん」と管路更新計画策定支援システム、φ700GX形ダクタイル鉄管などの展示をいたします。

ぜひ、弊社ブースにお立ち寄りください。お待ちしております。(小間番号: 2-103)

水道の課題解決のためのWebメディア
WATER KNOWLEDGE PARK
開設のご案内

このたびクボタは、水道の課題解決のためのWebメディア「WATER KNOWLEDGE PARK (ウォーター・ナレッジ・パーク)」を開設しました。

水道に関わるすべての方に向けて、水道業界で活躍するプロフェッショナルから得た知見や情報をつなげ、「共通知」としてお届けします。

管路の老朽化、人手不足、技術継承といった業界課題を

解決し、持続可能な次世代の水道を構築するためには、水道のプロフェッショナルが「知りたい」情報を集め、つなげ、共有する場をつくり、業界全体を活性化していくことが必要であると考え、「水道を支える皆さまが知識でつながる」情報メディアの開設に至りました。

本メディアでは、製品名や型番ではなく、「現場で困っていること」を入口に、必要な情報にたどり着きやすい逆引き構造を採用。施工現場でDXや経営改革に取り組む工事業者へのインタビュー、施工不良対策や補助金活用などのハウツー記事、開発者の想いを伝える社員インタビューなど、現場で役立つコンテンツをお届けします。ぜひ、お仕事の合間や移動時間に、お気軽にお立ち寄りください。

サイトはこちら▼

<https://water-knowledge-park.kubota.co.jp/>

サイトに関する問い合わせはこちら▼

KBT_g.pipeful-media-contact@kubota.com

▶右記QRコードよりサイトをご覧ください



施工情報システムⅡ採用の声

at 新潟県新潟市

当社では、以前に施工情報システムⅡをGXφ500布設工事において試験的に採用しました。当システムでは、各管材に合わせた接合手順が表示され、ガイダンスに沿って正しい接合管理を行うことができました。またiPad入力時に合否の判定の確認もできるため、作業者の熟練度によらず、施工品質の向上に繋がると感じました。

継手接合終了時には、iPadからデータをクラウドに送信することで、チェックシートが自動で作成され、作業後の事務処理にかかる時間を削減することができ、書類作成を確実かつ効率的に行えたことから、今回NS形φ500布設工事においても施工情報システムⅡを採用しました。

今後、施工情報システムⅡを利用して、新人育成等にも活用させていただきます。また、現場での使用意見や改善要望等をフィードバック予定です。施工情報システムⅡの更なる利便性の向上を期待しています。



<株式会社 越配 工事課長 中島様>



残留塩素濃度管理システム採用の声

at 群馬県安中市

安中市上下水道部では、DX推進の一環として、残留塩素濃度の確保と維持管理の効率化を目的に、令和7年度より上下水道DX技術カタログから選定して運用を開始しました。

本システムの導入により、クラウドアプリを通じて残留塩素濃度、水圧、水温、電気伝導率の情報をリアルタイムで取得できるようになりました。その結果、水質状態の常時監視が可能となり、定期的な巡視や排水作業を削減することができ、DXによる業務の効率化が図られたと評価しています。

また本製品は小型で可搬性を備えており、LTEを透過する鉄蓋(φ600)を使用することで公道下への設置が可能であるため、新たな用地取得を行うことなく導入できる点も特長であると評価しています。

今後は、より効率的な維持管理の実現に向けて機能が拡張されることに期待しています。



<安中市上下水道部 上水道工務課 課長補佐 土屋様>